

保育学生における理想の保育者像

清水益治
(奈良保育学院)

豊田弘司
(奈良教育大学)

保育学生のもつ保育者のイメージについて調べた研究は数が多い。例えば、森田・藤井・清水(1993)は保育実習の前後に保育所保育と自分のイメージをSD法を用いて調べた。その結果、実習を経験することにより、保育と自分のイメージが近づくことを示した。これらの保育者のイメージを調べた研究のほとんどは評定法を用いている。本研究では自由記述法を用いて、保育所保育、幼稚園教諭、母親、父親の理想の姿を探る。

方 法

調査対象 調査対象は、N保育専修学校の2回生59名と1回生66名である。さらに比較対象として女子大学生148名(N教育大学の学生85名とK大学の学生63名)のデータを分析した(「大学生における保育者の理想像：豊田・清水、今大会」参照)。

調査用紙 「あなたがイメージする理想の保育所の先生(保育)にあてはまる条件を3つ書いて下さい」という指示を書き、その下に①、②、③と番号を打ち、3つの条件を記入する空欄を設けた。同様に、幼稚園の先生(教諭)、母親、父親の各項目についても、指示と記入欄を作成した。

手 続 授業時間中に、集団で調査した。用紙に印刷されている上述の指示を読み上げて、各項目ごとに理想像に該当する特徴を記入してもらった。

結果と考察

全反応の分析は第1反応の分析とほぼ同じ結果であったので、以下では、より純粋な反応であると思われる第1反応に限って分析する。

表1に理想の保育所保育に関する第1反応について、出現率が高いものから5つまでを示す。2回生と1回生で共通しているのは、「やさしい」「明るい」「笑顔で接する」という3条件である。これらが保育学生の見た理想の保育所保育像であると考えられる。

「やさしい」と「明るい」は大学生の理想像にも現れている。学生に共通する保育所保育の理想像であることが示唆される。大学生(女子)と比べると、保育学生の反応は具体的であることがわかる。保育学生は保育者をめざしており、専門の勉強をし、実習で実際

の保育と接しているので、イメージが具体的に湧くのかもしれない。豊田・三木(1995)は、大学生と現職教師の理想の教師像を比較したところ、大学生は教師の人間性、現職教師は児童生徒の理解を最も重視していた。児童生徒を抜きにした教師像は具体性を欠く。実際にその立場の者やその立場を実習などで経験すると、より具体的に理想像を考えることができるのであろう。

表1に示した出現率を合計すると、2回生では56.1%、1回生では66.7%、大学生(女子)では72.9%であった。2回生は、3つの集団の中で、最も専門の勉強が進んでおり、現職の保育に近い存在であろう。5位までの出現率の合計が少ないことが、個人差が大きいことをあらわすと考えるならば、専門の道に入れば入るほど、様々な理想の条件を考えることができるようになると思われる。

表2に理想の幼稚園教諭に科する第1反応について、出現率が高いものから5つまでを示す。2回生と1回生で共通しているのは、「笑顔で接する」と「歌やピアノが上手」である。これらが保育学生のみた理想の幼稚園教諭像であると考えられる。このうち「笑顔で接する」は、大学生の理想には5位までに出現しない。これが保育学生特有の理想像であることが示唆される。

出現率の合計は2回生が40.8%、1回生が60.7%、大学生が64.2%であった。2回生は5位までを合計しても50%を切っている。表2に示す5つの理想の姿が2回生の理想像を代表している程度は低い。このことに関して、調査校の2回生は、調査の約6か月前と3か月前に幼稚園教育実習を経験し、調査時点でも教育実習事前事後指導を受講中であった。さらに調査校で開講している全ての授業を受講済み、または受講中であった。様々な現実の姿に接したり、授業で理想と現実の姿を習う中で、幼稚園教諭に対するイメージが広がっているのかもしれない。

保育所保育と幼稚園教諭を比べると、保育学生では両回生とも、「笑顔で接する」が共通している。保育学生にとって、保育職の理想像が「笑顔」をもっていると思われる。1回生は5つの内4つまでが保育所保育と幼稚園教諭が一致している。1回生にとって保育と幼稚園教諭のイメージは近いものなののかもしれない。大学生では「やさしい」、「子どもが好き」及び「男

るい」が保育職の理想像であろう。

表3と表4に、理想の母親及び父親に関する第1反応について、出現率の高いものから5つまでを示す。母親では、「やさしい」が3つの群で1位であり、母親の理想像には「やさしい」が第1条件であると思われる。「やさしい」の出現率をみると、大学生、1回生、2回生の順に高くなっている。2回生は保育所、幼稚園をはじめ、養護施設、精神薄弱児（者）施設で実習を経験している。実習でいろいろな母親に出会い、「やさしい」だけでは困ると考える学生が増えたのかもしれない。

理想の父親像では、「頼りがいがある」が3つの群に共通して5位までに現れている。これがこの年代に共通する理想像かもしれない。保育学生に限ってみる

と、「子どもとよくつきあう」「家族を大切にする」が共通している。2回生は先に述べたように養護施設の実習を経験している。1回生も調査の2か月後には養護施設に実習に行くことになっている。そのため家族の中での父親の役割や子どもと父親の関係などに注意がむくのかもしれない。

森田ら(1993)は実習経験により保母のイメージが自分のイメージに近づくことを示したが、保育学生は様々な実習を経験することにより、保育者の理想の姿を分化させ、自分にあった保育職を見つめるのかもしれない。

(付記) 本研究のデータ整理に関しては、奈良教育大学教育学研究科の三木 馨君に協力を得た。記して感謝の意を表します

表1. 理想の保育所保母に関する第1反応の出現率（5位まで：％）

2回生		1回生		大学生（女子）	
1位. 明るい	(15.3)	やさしい	(21.2)	やさしい	(45.9)
2位. 笑顔で接する	(11.9)	笑顔で接する	(19.7)	子どもが好き	(14.2)
3位. やさしい	(10.2)	子どもとの信頼関係がもてる	(10.6)	面倒見がよい	(8.1)
4位. 元気がある	(10.2)	明るい	(9.1)	温かい	(2.7)
5位. 子どもの気持ちを理解する	(8.5)	子どもとよく遊ぶ	(6.1)	子どもとよく遊ぶ (明るい) (思いやりがある)	(2.0)
計 56.1		66.7		72.9	

表2. 理想の幼稚園教諭に関する第1反応の出現率（5位まで：％）

2回生		1回生		大学生（女子）	
1位. 笑顔で接する	(10.2)	やさしい	(27.3)	やさしい	(41.9)
2位. 子どもの気持ちを理解する	(8.5)	笑顔で接する	(10.6)	子どもが好き	(10.8)
3位. 歌やピアノが上手	(8.5)	子どもとの信頼関係がもてる	(9.1)	明るい	(4.7)
4位. 元気がある	(6.8)	明るい	(7.6)	元気がある	(3.4)
5位. けじめがある	(6.8)	歌やピアノが上手	(6.1)	歌やピアノが上手	(3.4)
計 40.8		60.7		64.2	

表3. 理想の母親に関する第1反応の出現率（5位まで：％）

2回生		1回生		大学生（女子）	
1位. やさしい	(19.0)	やさしい	(27.7)	やさしい	(36.0)
2位. 子どもの気持ちを理解する	(10.3)	あたたかい	(6.2)	あたたかい	(5.3)
3位. 子どもとよく話をする	(6.9)	ほめ方や叱り方が上手	(4.6)	厳しい	(4.0)
4位. 友だちのように接する	(5.2)	厳しさと優しさの両面を持つ	(4.6)	しっかりとした	(3.4)
5位. しつげがきちんとできる (愛情がある)	(5.2)	愛情がある	(4.6)	(子どもとよく話をする) (明るい) (子どもの気持ちを理解する)	(3.4)
計 46.6		47.7		52.1	

表4. 理想の父親に関する第1反応の出現率（5位まで：％）

2回生		1回生		大学生（女子）	
1位. 子どもとよくつきあう	(10.0)	家族を大切にする	(20.6)	やさしい	(13.5)
2位. 家族を大切にする	(10.0)	やさしい	(15.9)	頼りがいがある	(10.1)
3位. 頼りがいがある	(6.7)	子どもとよくつきあう	(14.3)	しっかりとした	(6.8)
4位. 厳しく叱ることができる	(5.0)	厳しさと優しさの両面を持つ	(9.5)	子どもの気持ちを理解する	(5.4)
5位. けじめがある (いつも身近にいる) (働き者である)	(5.0)	頼りがいがある	(7.9)	子どもとよく話をする (尊敬できる)	(4.1)
計 36.7		68.2		39.9	